

資料16 学部共通で「地域対応力」を養成

地域対応力とは・・・

学部共通で「地域対応力」を養成

地域と向き合う力

1年次の「地域の姿と課題Ⅰ」「地域コミュニケーション演習」「地域デザイン訪問」で、地域が直面している課題の概況や地域の歴史・文化・自然について知見を深めるとともに、コミュニケーションの基礎力を醸成する。

また、少子高齢化に関して「とちぎ終章学総論」と「とちぎ終章学特講」で知識を深める。その後3年次には、専門科目による知識・技術を踏まえ、「地域の姿と課題Ⅱ」の知事・市町村長等との討議から地域と向き合う力を強化する。

<主な授業科目>

- 基盤教育科目
「とちぎ終章学総論」
「とちぎ終章学特講」
- 共通専門科目
「地域の姿と課題Ⅰ」
「地域の姿と課題Ⅱ」
「地域コミュニケーション演習」
「地域デザイン訪問」

地域の実態を調査し分析する力

1年次の「地域デザイン学序論A」, 「地域デザイン学序論B」, 「地域デザイン学序論C」において、それぞれ地域社会分野、建築都市分野、社会基盤分野と地域デザインとの関わりについて理解を深め、複眼的視点から調査し分析することの重要性に触れる。その後、2年次の「社会調査法」や「統計学基礎」及び3年次の「社会統計学」において、具体的な手法で地域の実態を調査・分析する力を養成する。

<主な授業科目>

- 基盤教育科目
「地域デザイン学序論A」
「地域デザイン学序論B」
「地域デザイン学序論C」
- 学科専門科目
「統計学基礎」
「社会統計学」
「社会調査法」

地域の課題を解決する力

分析手法や専門知識・技術の修得を踏まえて、3年次の「ワークシヨップ演習」と「地域プロジェクト演習」によって、総合的・実践的な力としての地域の課題を解決する力を養成し、4年次の「卒業研究」に結びつける。なお、専門職業人として兼ね備えるべき倫理観についても、「地域デザイン倫理」で養成する。

<主な授業科目>

- 共通専門科目
「ワークシヨップ演習」
「地域プロジェクト演習」
「地域デザイン倫理」
- 学科専門科目
「卒業研究」

**資料17 専門科目のアクティブ・ラーニング化（100％）と
全学への波及**

専門科目のアクティブ・ラーニング化（100%） と全学への波及

アクティブ・ラーニング
授業のなかに、能動的学び
として、学生同士の議論、
グループワーク、プレゼン
テーション、ディベート、
調査・分析、実習、実験、
のいずれかの要素を含むこ
とを必須とする。

● 専門科目の全てをアクティブ・ラー
ニングとして授業を行い、総授業時間数
に占めるアクティブ・ラーニングの要素
の割合によって、授業科目を次のとおり
分類した。

AL20：総授業時間数の10～30%

AL50：総授業時間数の30～60%

AL80：総授業時間数の60～100%

「地域デザインセンター」（学部附属）でアクティブ・ラーニングの要素に関する手法等について研修会・ワークショップを開催し、学部全体のFD・SDによって教員への支援・授業の充実を実現させる。

第3期中期目標・計画期間中（平成28年度～33年度）
“本学の全ての科目をアクティブ・ラーニングとして実施”

「大学教育再生加速プログラム」（AP）の発展

資料18 担当予定授業科目

担 当 予 定 授 業 科 目

平成27年 3月25日

氏 名 印

| | | | |
|--|-------|-------|-----|
| 授業科目の名称 | 経済政策論 | | |
| 配当年次 | 2年次 | 配当学期 | 後期 |
| 年間開講回数 | 1回 | 単位数 | 2単位 |
| 必修・選択等の別 | 選択 | 授業の方法 | 講義 |
| 授 業 科 目 の 内 容 | | | 備 考 |
| <p>経済分野の社会システム理解のうち、地域経済の活動の背景にある経済変動とそれへ働きかける経済政策について理解するための科目である。財政政策・金融政策などが、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。財政政策や金融政策がGDPに与える影響について、経済理論としてはどのように説明されるのか、さらに、それが失業やインフレーション・デフレーションとどのように結びつき、どのような意味をもつのかについて明らかとする。さらに、現実の経済問題にも触れながら、応用的な社会認識の能力を身につける。</p> <p style="color: red;">AL20：授業形態は、テキストを用いレジメにより授業の展開を提示し、必要に応じて資料等を配布して講義を行う。提出レポートに対する添削、授業時間内外での演習など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|-------|----------------------------|
| 授業科目の名称 | 社会基盤解析法 I | | |
| 配当年次 | 1年次 | 配当学期 | 前期 |
| 年間開講回数 | 1回 | 単位数 | 2単位 |
| 必修・選択等の別 | 必修 | 授業の方法 | 演習 |
| 授 業 科 目 の 内 容 | | | 備 考 |
| <p>社会基盤の整備・設計に必要な数学的素養、特に微積分学とその応用としての力学の基礎を修得する。具体的には、微積分学については、関数の極限、1変数の微分・積分、多変数の微分・積分、微分方程式等を扱う。力学の基礎については、運動学、質点の1次元運動、束縛運動、慣性力、質点の2次元運動、質点系の運動等を扱う。また、表計算ソフトを活用して、微積分と力学に関する基本的な計算手法を学習する。</p> <p style="color: red;">AL50：授業時間では、講義による説明は最小限に抑え、教員とTAとの双方向的演習授業により具体的な計算能力の修得を目指す。</p> | | | <p>講義 10時間 演習 20時間</p> |

| | | | |
|--|--------|-------|-------|
| 授業科目の名称 | 土木工学実験 | | |
| 配当年次 | 3年次 | 配当学期 | 通年 |
| 年間開講回数 | 1回 | 単位数 | 2単位 |
| 必修・選択等の別 | 必修 | 授業の方法 | 実験・実習 |
| 授 業 科 目 の 内 容 | | | 備 考 |
| <p>土木工学の力学系科目である構造力学、コンクリート工学、水理学、土質力学の4分野について、講義で学んだ基礎知識を応用して、実際の現象に触れ、レポートにまとめることで、理解を深める。</p> <p>本実験では、1) 基礎知識を元に実験結果をまとめることができる、2) 実験に必要な基礎理論の習得・基礎理論の適用範囲の把握・実験結果の妥当性について判断できる、3) 実験結果をまとめ、客観的に考察できる、4) スケジュールを管理し、自主的に実施できる、5) 班内の役割分担を適切に決め、効率よく実験が実施できる、6) 実験精度、内容が適切であること、7) データ処理が適切にできる、8) 実験結果、考察、結論などを報告書の形式でまとめることができる、を達成目標とする。</p> <p>AL80: 1クラスを4班に分けて実施する。実験前には教員が学生に試問し、実験の内容・理論について徹底理解を図る。実験作業、データ整理と考察は、班ごとに協働して行い、レポートを作成し提出する。</p> | | | 共同 |

**資料19 地域連携，学科混成による
「地域プロジェクト演習」の必修化**

地域連携、学科混成による 「地域プロジェクト演習」の必修化

概要

目的：「地域対応力」として特に重要な、コミュニケーション力、調査・分析力、プレゼンテーション力、チームの一員として動く力（協働力）を養成する

- 3年次 140名を対象に必修化
- 通年
- 学科混成の学生5人でのチーム（約30チーム）
- チームのサポート：教員 + 受入機関・団体等
- 最終的に地域の課題解決に向けて、学生主体の発表会・ワークショップを開催

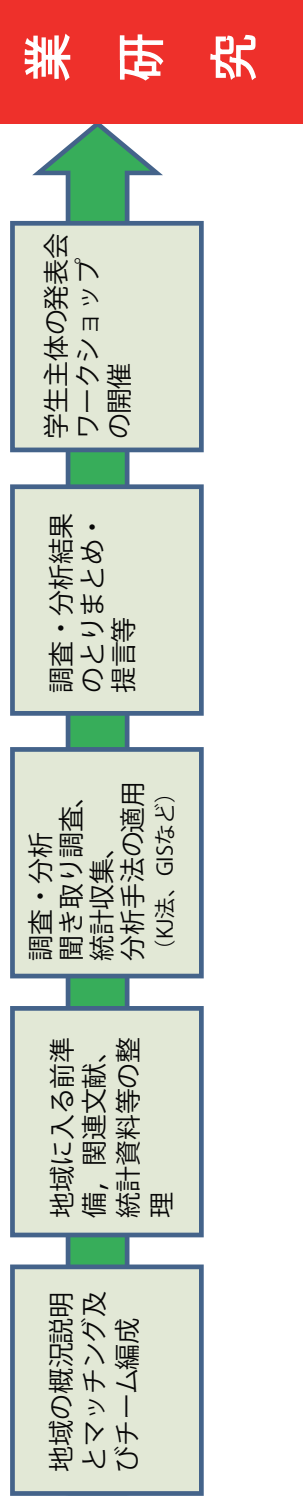
地域との連携

- <機関等>
- 栃木県
 - 宇都宮市
 - 栃木市長会（14市）
 - 栃木県町村会（11町）
 - 公益社団法人栃木県経済同友会（正会員260名）
 - 建築関係団体
 - 土木関係団体

<協力内容>

- 学生の受入れ
 - 講師派遣
 - 地域調査・分析への協力
 - 中間報告の講評
 - 発表会・ワークショップの開催
 - その他
- （現地会場など）

基本的スキーム



資料20 「地域プロジェクト演習」の概要

「地域プロジェクト演習」の概要

対象学年：3年生

期間：1年間随時

学生定員：140名

目的：地域に向き合い、地域の実態を把握し、地域の課題解決能力の向上を図るために必要なものとして、コミュニケーション能力、調査・分析能力、プレゼンテーション能力、チームとして動く能力（協調性）の涵養を図る

内容：学生5人（建築、土木、社会分野の混成）をチームとして、行政機関・企業・団体等に割り振り（チームとして対象とするフィールドを決める）、そこをフィールドとして、調査・分析を行い、最終的に課題解決のための発表会を開催する。

進め方としては概ね以下ようになる。

- 機関・企業から概況説明：マッチングと地域に向き合う入門として
- 前準備：地域に入る前に、関連する情報・データの整理、など
- 地域に入ってみよう：関連する人々とのコミュニケーション、など
- 分析：聞き取り調査、KJ法、データ分析、GIS処理など
- 課題の抽出
- 課題解決方法：現場と専門知識・技術の往還
- 発表会の開催

●「地域プロジェクト演習」の具体的なイメージ例1

| 中核市の高齢社会対応まちづくり | | |
|-----------------|-------------|---|
| 時期 | 活動の概要 | |
| 4月 | 説明会 | 宇都宮大学教員・A市役所まちづくり担当者による説明、基礎データの提供 |
| 5月 | グループ編成 | 学部混成（建築、土木、社会分野）による課題別グループ（各5名程度を想定）の結成 |
| 5-6月 | グループワーク | プロジェクト立案（「高齢者の利用しやすい公共交通」「高齢者単身世帯への食事ケア」「高齢者にやさしい生活情報伝達システム」「高齢者福祉政策の現状と課題」「ソーシャルビジネスと高齢社会」など） 連携先の調整と確定 |
| 7-9月 | 現地訪問・調査 | 担当部署、NPO、企業等への訪問と聞き取り、現場の確認（A市役所への聞き取り、現地視察・現地調査）、市民・市民団体からの聞き取り |
| 9-12月 | 課題の分析・とりまとめ | 学内でのグループワークと課題の分析、対応策の検討、A市まちづくり担当者への中間報告と意見聴取、成果発表資料の作成 |
| 1月 | 成果発表会 | 宇都宮大学にてプロジェクト成果発表会を行い、関係機関等からの講評を受ける |

●「地域プロジェクト演習」の具体的なイメージ例2

| 中山間地域の人口減少課題と地域振興 | | |
|-------------------|-------------|--|
| 時期 | 活動の概要 | |
| 4月 | 説明会 | 人口減少と想定される将来影響について、宇都宮大学教員・B町担当者による説明、基礎データの提供 |
| 5月 | グループ編成 | 学部混成（建築、土木、社会分野）による課題別グループ（各5名程度を想定）の結成 |
| 5-6月 | グループワーク | プロジェクト立案（「オンデマンド交通と集落連携広域まちづくり」「定年新規就農者の受け入れ課題」「農村直売所の効果的な情報発信」「農村ツーリズムによる着地型観光開発」「魅力ある農村景観資源調査」など） 連携先の調整と確定 |
| 7-9月 | 現地訪問・調査 | 担当部署、農家、企業等への訪問と聞き取り、現場の確認（B役場への聞き取り、現地視察・現地調査、農家・関連企業等からの聞き取り） |
| 9-12月 | 課題の分析・とりまとめ | 学内でのグループワークと課題の分析、対応策の検討、B町担当者への中間報告と意見聴取、成果発表資料の作成 |
| 1月 | 成果発表会 | 宇都宮大学にてプロジェクト成果発表会を行い、関係機関等からの講評を受ける |

資料21 養成する能力と授業科目：学科別

養成する能力と授業科目：学科別

| コミュニケーションデザイン学科 | 建築都市デザイン学科 | 社会基盤デザイン学科 |
|--|--|---|
| <p>1) 地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力</p> <p>地域社会総論 経済学概論</p> <p>まちづくり論 政治学概論</p> <p>行政学</p> | <p>1) 自然現象のメカニズムを理解し建築・地域デザイン技術に活かす能力</p> <p>建築構造力学II 地域環境エネルギー計画</p> <p>鉄骨構造 建築材料実験</p> | <p>1) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための基礎的な専門知識・理論が理解できる能力</p> <p>構造力学I 土質力学I 鉄筋コンクリート工学</p> <p>水理学II 水理学I コンクリート工学I 測量学</p> |
| <p>2) 地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力</p> <p>社会調査と地域 社会統計学 高齢社会学</p> <p>統計学基礎 社会調査実習I プロジェクト評価論</p> <p>社会調査法 社会統計学 プロジェクト評価論</p> | <p>2) 人間及び社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力</p> <p>建築計画学I 設備工学I</p> <p>都市計画 バリアフリー建築論</p> | <p>2) 社会基盤整備の実務上の問題に対応するために、専門知識を適用・発展することができる能力</p> <p>測量学実習 土工学実験 社会基盤設計演習</p> |
| <p>3) 地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力</p> <p>地域資源論 農村起業論</p> <p>観光概論 地域食育論</p> | <p>3) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力</p> <p>建築材料I 建築リサイクル学</p> <p>建築生産</p> | <p>3) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる能力</p> <p>海外プロジェクトI 海外プロジェクト演習</p> |
| <p>4) 新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力</p> <p>公共政策入門 福祉社会学 文化マネジメント</p> <p>NPO論 公共経済学 多文化理解論 文化マネジメント</p> <p>地方自治論</p> | <p>4) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力</p> <p>建築デザイン 建築地域設計製図</p> <p>建築史I 卒業設計</p> | <p>4) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる能力</p> <p>土木計画学 防災マネジメントI</p> <p>公共経済学 卒業研究 防災マネジメント演習</p> |
| <p>5) 地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力</p> <p>ソーシャルスキル演習 地域実践心理学</p> <p>まちづくり特講</p> | <p>5) 工学・地域デザインと芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く能力</p> <p>卒業設計</p> <p>卒業研究</p> | <p>5) 社会基盤整備及び施策を、適切な形で着実にやり遂げることができる能力</p> <p>社会基盤インターンシップ 卒業研究</p> |

資料22 基盤教育の理念と達成目標標準

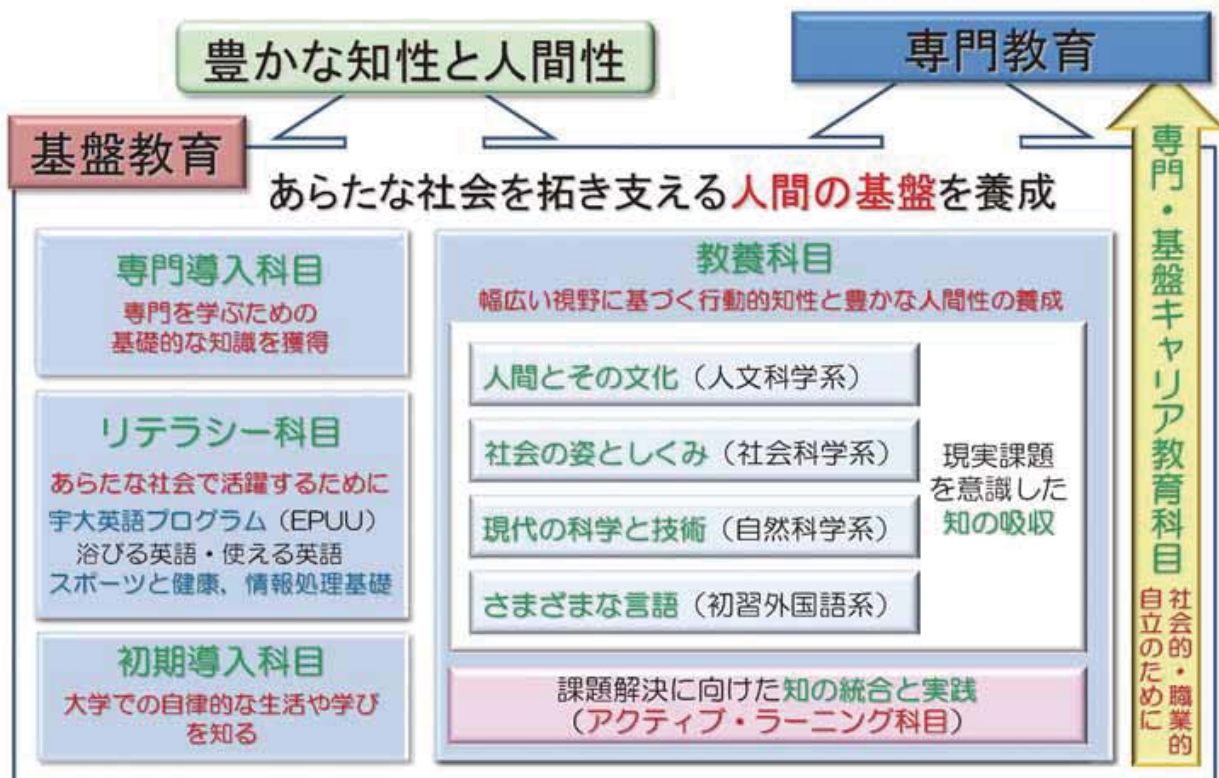
★ 基盤教育の理念と達成目標標準

基盤教育では、現代社会に必要なリテラシー、未知の事態に的確に対応できる幅広く深い教養と豊かな人間性、そして、知と行動力を統合し、あらたな知を創造できる人間としての基盤を育成することを理念とします。

★ 基盤教育の概要と基盤教育プログラム・シラバス

基盤教育のカリキュラムは、大学教育全般への導入を目的とする初期導入科目、現代社会に必要なリテラシーを養うリテラシー科目、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけると同時に、知と行動力を統合する能力を育成する教養科目、社会的・職業的自立に向け、必要な知識、技能、態度を育成する基盤キャリア教育科目、そして、専門教育へつながる基礎となる専門導入科目から構成されています。

宇都宮大学の基盤教育



資料23 基盤教育科目履修表

| 科目区分 | 開講科目数 | コミュニケーション学科 | | 建築都市デザイン学科 | | 社会基盤デザイン学科 | | 備考 |
|------------|----------|-------------|-----|------------|-----|------------|-----|--|
| | | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | |
| 初期導入科目 | 1科目 | 2単位 | | 2単位 | | 2単位 | | |
| リテラシー科目 | 38科目 | 13単位 | | 13単位 | | 13単位 | | |
| 人文科学系科目 | 哲学領域 | 2単位 | 6単位 | 4単位 | 4単位 | 4単位 | 4単位 | 建築都市デザイン学科及び社会基盤デザイン学科の必修2単位は、数学領域及び物理学領域以外の科目から選択する |
| | 心理学領域 | | | | | | | |
| | 文学領域 | | | | | | | |
| | 芸術領域 | | | | | | | |
| | 人文総合領域※1 | | | | | | | |
| 社会科学系科目 | 法学領域※2 | 2単位 | 6単位 | 4単位 | 4単位 | 4単位 | 4単位 | |
| | 政治学領域 | | | | | | | |
| | 経済学領域 | | | | | | | |
| | 社会学領域 | | | | | | | |
| 自然科学系科目 | 地理学領域 | 2単位 | 6単位 | 2単位 | 2単位 | 2単位 | 2単位 | |
| | 歴史学領域 | | | | | | | |
| | 社会総合領域 | | | | | | | |
| | 数学領域 | | | | | | | |
| | 物理学領域 | | | | | | | |
| | 化学領域 | | | | | | | |
| | 生物学領域 | | | | | | | |
| | 情報科学領域 | | | | | | | |
| | 地学領域 | | | | | | | |
| | 健康科学領域 | | | | | | | |
| 自然総合領域 | | | | | | | | |
| 初習外国語系科目 | 36科目 | | | | | | | |
| 総合系科目 | 24科目 | 1単位 | | 1単位 | | 1単位 | | とちぎ終章学特講 必修 |
| 基盤キャリア教育科目 | 9科目 | 2単位 | | 2単位 | | 2単位 | | |
| 自由科目 | 4科目 | | | | | | | |
| 留学生日本語科目 | 6科目 | | | | | | | |
| 専門導入科目 | 3科目 | 6単位 | | 6単位 | | 6単位 | | |
| 合計 | 273科目 | 30単位 | 6単位 | 32単位 | 4単位 | 32単位 | 4単位 | |

※1. コミュニティデザイン学科については14科目

※2. コミュニティデザイン学科については4科目

基盤教育科目履修表

資料24 平成26年度テーマ別教養科目リスト

平成26年度テーマ別教養科目目リスト

| テーマ | 系 | 人文科学系科目 | 社会科学系科目 | 自然科学系科目 | 初習外国語系科目 | 総合系科目 | |
|-------|---------|---|---|---|--|---|-------|
| 栃木・日本 | 人文科学系科目 | 国文学A 日本文学(古典) 日本語の表記 社会言語学概論-日本語の変遷- Japanese Communication Arts 東洋思想 人間関係の心理学 障害者心理学 心理学と人権 認知心理学入門 ことばから見た人間 ★ 教育の裏側に光を当てる | ★ 栃木県の歴史と文化 地域の歴史 現代日本の社会 日本国憲法 現代日本政治論 社会学入門 歴史と文化 国際化と人権 人文地理学入門I 人文地理学入門II 法学入門 法學概論 戦争と平和をめぐる諸問題 教科書に見る歴史と社会 著作権法入門 経済分析入門 ★ 社会開発入門(26年度のみ開講) マスコミ入門 農業を始めるための経営学 | ★ フィールド生物学(26年度のみ開講) 自然観察入門(26年度のみ開講) 雑草と人のくらし 雑草と里山のフィールド演習I 雑草と里山のフィールド演習II 人間の感覚を測る 身のまわりのICT 食料生産の生物学 人間生活と植物 放射線科学入門 健康のためのめら死んでもいい? 青年期の健康管理 肥満の科学 健康運動学概論 | ドイツ語基礎I ドイツ語基礎II フランス語基礎I フランス語基礎II スペイン語基礎I スペイン語基礎II 中国語基礎I 中国語基礎II タイ語基礎I タイ語基礎II 朝鮮語基礎I 朝鮮語基礎II | ★ 栃木の里山に学ぶ(春夏編) ★ 栃木の里山に学ぶ(秋冬編) ★ 実跡・宇都宮のまちづくり ★ 一地方銀行の歴史に学ぶ “地域金融機関の役割” 野外調査論 ★ 3.11と字問の不確かさ 一震災後の大学で考えるー ★ ワークショップで学ぶ [変わりゆく現代社会の中の私たち] 里山の動物と人間 ★ 男女共同参画社会を生きたる ★ ボランティアという生き方 ★ 里山のサステイナビリティを考える ★ 食と生命と環境のフィールド演習 ★ ものづくり体験 ★ 危機を見つめる力 | 総合系科目 |
| | 社会科学系科目 | グローバリ化と外国人児童生徒教育 歴史と民族 中東の社会と文化 戦争と平和をめぐる諸問題 グローバル・ガバナンス論入門 社会開発入門(26年度のみ開講) 国際政治史 政治の世界 現代政治の理論と実態 国際協力論入門 歴史学入門 文化人類学入門 | ★ 人間の感覚を測る グラフィックス入門 健康のためなら死んでもいい? 人間生活と植物 | ドイツ語基礎I ドイツ語基礎II フランス語基礎I フランス語基礎II スペイン語基礎I スペイン語基礎II 中国語基礎I 中国語基礎II タイ語基礎I タイ語基礎II 朝鮮語基礎I 朝鮮語基礎II | ★ 男女共同参画社会を生きたる ★ 3.11と字問の不確かさ 一震災後の大学で考えるー ★ ワークショップで学ぶ [変わりゆく現代社会の中の私たち] | 「ふるじえくと」をやってみる | |
| 世界・地球 | 人文科学系科目 | 東洋思想 中国文学 西洋の倫理思想 多言語コミュニケーション学A・B 米文学入門 言語習得論 西洋思想 フランス文学 英文学入門 比較文学 | 遊びの理論とゲーム開発 マスコミ入門 知的財産権概論 アウトドアスポーツ入門 (26年度のみ開講) 遊び論と遊び指導 伝統業績の感性 | 遊びの理論とゲーム開発 マスコミ入門 知的財産権概論 アウトドアスポーツ入門 (26年度のみ開講) 遊び論と遊び指導 伝統業績の感性 | ドイツ語基礎I ドイツ語基礎II フランス語基礎I フランス語基礎II スペイン語基礎I スペイン語基礎II 中国語基礎I 中国語基礎II タイ語基礎I タイ語基礎II 朝鮮語基礎I 朝鮮語基礎II | ★ 3.11と字問の不確かさ 一震災後の大学で考えるー ★ ワークショップで学ぶ [変わりゆく現代社会の中の私たち] | |
| | 社会科学系科目 | 現代美学 人間関係の心理学 美術表現基礎 障害者心理学 心理学と人権 近現代美術論 声のトレーニンング ★ ものの文化と社会 | | | | | |
| 感性・表現 | 社会科学系科目 | | | | | | |

| | | | | | |
|---------------------------------------|---|--|--|--|--|
| <p>生命・環境</p> | <p>西洋の倫理思想 科学思想史 西洋思想</p> | <p>環境と国際社会 環境教育 農村空間論</p> | <p>地球環境と化学 環境と生物化学 放射線科学入門 人間生活と植物 身近な気象学 生物の多様性とは何か ウイルスの世界と生物の世界 （26年度のみ開講） 微生物の化学 地球環境と生物事件史 雑草と里山のフィールド演習Ⅱ 食料生産の生物学 健康管理学概論 青年期の健康管理 肥満の科学 基礎生物学 リマデリアル化学 健康運動科学 水素とエネルギー 健康のためなら死んでもいい！</p> | <p>ドイツ語基礎Ⅰ ドイツ語基礎Ⅱ フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎Ⅱ 中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ タイ語基礎Ⅰ タイ語基礎Ⅱ 朝鮮語基礎Ⅰ 朝鮮語基礎Ⅱ</p> | <p>★食と生命と環境のフィールド演習 ★里山のサステイナビリティを考える ★3.11と学問の不確かさ ー震災後の大学で考えるー ★ワークショップで学ぶ 「変わりゆく現代社会の中の私たち」 生きているということ 感じる・考える・話す</p> |
| <p>情報・技術</p> | <p>認知心理学入門 実験心理学入門 ことばから見た人間</p> | <p>農業を始めるための経営学 資本市場の役割と証券投資 経済学Ⅰ</p> | <p>エレクトロニクス科学史 物理工学最前線 入門実験化学 物質・材料の機器分析入門 元素と原子 インターネットのしくみ Webのしくみ 身のまわりのOICT ワイヤレス通信のしくみ 熱・物理解 電気電子学入門 Mathematica入門 Mathematicaによるデータ解析入門 プログラミング応用 情報教育演習 C言語・プログラミング入門 振動の科学 現代数学入門</p> | <p>ドイツ語基礎Ⅰ ドイツ語基礎Ⅱ フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎Ⅱ 中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ タイ語基礎Ⅰ タイ語基礎Ⅱ 朝鮮語基礎Ⅰ 朝鮮語基礎Ⅱ</p> | <p>★ものづくり体験 ★危機を見つめる力 野外調査論 ★3.11と学問の不確かさ ー震災後の大学で考えるー</p> |
| <p>上記5つの テーマのいずれにも 属さない科目</p> | <p>現代思想 論理学 仏教における人間形成論 行動心理学入門 文化論・Ⅱ 芸術学 音楽通論 生涯学習概論 日本語を文法的に考える 発達と学習の心理学</p> | <p>住まいづくり・まちづくり入門 ★人と自然の共生を考える ゲーム理論入門 数理経済学入門 多文化共生論入門 応用経済学入門 希望の地域社会論</p> | <p>ノーベル化学賞周辺の化学 不思議な化学</p> | | |

※平成26年度開講科目のみを掲載 ★印はアクティブ・ラーニング科目